平成 28 年度　東京都内湾水生生物調査　9 月鳥類調査　速報

●実施状況

平成 28 年 9 月 15 日に鳥類調査を実施した。この時期は秋の渡り期にあたり、渡り鳥のシギ・チドリ類や冬鳥のコガモ、ユリカモメなどが確認された。天気は曇り一時晴れで、気温 24.8～27.2℃、北寄りの風が 0～0.5m/sec であった。調査当日は中潮で、干潮が 9 時 59 分（38cm）、満潮は 16 時 34 分（200cm）であった（東京都港湾局のデータ）。各地点の概況を下表に示す。

	葛西人工渚	お台場海浜公園	森ヶ崎の鼻
作業時刻	12:10-13:20	8:45-9:39	10:15-10:56
天候	曇り	曇り	曇り一時晴れ
気温(℃)	27.2	24.8	25.6
風向	-	-	北
風速（m/sec）	0	0	0.5
備考	上げ潮時に調査を行った。 ハヤブサ（調査対象外）を干潟上で確認した。	オオタカ（調査対象外）を第六台場の樹上で確認した。	干潟が広く干出していた。 干潟の汀線には、船が接岸していた。

●主な出現種等

	葛西人工渚	お台場海浜公園	森ヶ崎の鼻
数が多かった鳥類上位 2 種	ウミネコ（467 羽） カワウ（111 羽）	カワウ（313 羽） カルガモ、アオサギ(19 羽)	ウミネコ(203 羽) ユリカモメ(26 羽)
その他の鳥類	カルガモ、スズガモ、サギ類（アオサギ、ダイサギ等）、オオバン、シギ・チドリ類（キリアイ、トウネン等）、オオセグロカモメ、大型カモメ、ミサゴなど。	ササゴイ、ダイサギ、コサギ、イソシギ、ウミネコ、ハクセキレイ。	カルガモ、コガモ、カワウ、アオサギ、ダイサギ、コサギ、イソシギ、オオセグロカモメ、ハクセキレイ。
備考	・汀線際や干潟ではサギ類が採食。カワウ、カモメ類が休息。 ・ハヤブサが出現していたためか、小型シギ類はヨシ原の陰で採食。 ・調査範囲外の沖側に停泊していた作業船にもカモメ類が休息。 ・重要種として、11 種を確認（スズガモ、ダイサギ、コサギ、オオバン、ダイシャクシギ、アオアシシギ、キアシシギ、ソリハシシギ、トウネン、キリアイ、ミサゴ）。	・第六台場ではカワウやサギ類の営巣は終了し個体数は減少。 ・護岸ではササゴイやイソシギが採食。 ・海浜公園側の護岸や干潟ではカワウとアオサギが休息。幼鳥も確認。 ・砂浜ではカルガモ、ウミネコが休息。カルガモの雛を確認。 ・重要種として、4 種を確認（ササゴイ、ダイサギ、コサギ、イソシギ）。	・干潟や護岸ではサギ類が採食。 ・干潟ではカワウ、カモ類、カモメ類が休息。 ・冬鳥のコガモ、ユリカモメを確認。 ・重要種として、3 種を確認（ダイサギ、コサギ、イソシギ）。

●出現種と個体数

No.	目	科	種名	5月			6月			8月			9月			重要種 選定基準			
				葛西人工渚	お台場海浜公園	森ヶ崎の鼻	葛西人工渚	お台場海浜公園	森ヶ崎の鼻	葛西人工渚	お台場海浜公園	森ヶ崎の鼻	葛西人工渚	お台場海浜公園	森ヶ崎の鼻	文化財[*1]保護法	種の[*2]保存法	環境省[*3] RL 2012 鳥類	東京都[*4] RL 2010 (区)
1	カモ	カモ	マガモ	3															
2			カルガモ	10	6	16	3	3	13	10	4	14	3	19	23				
3			コガモ												3				
4			スズガモ				10			7			3						留
5	カイツブリ	カイツブリ	カンムリカイツブリ	8															留
6	カツオドリ	ウ	カワウ	93	516	10	1236	1099	19	638	509	95	111	313	25				
7	ペリカン	サギ	ゴイサギ		2			1											
8			ササゴイ						2					1					CR
9			アオサギ	5	25	3	28	53	13	17	22	11	28	19	17				
10			ダイサギ	4	5		10	8		18	16	15	25	6	19				VU
11			コサギ	13	20	3	12	171	4	16	10	11	15	7	14				VU
12	ツル	クイナ	バン							1									VU
13			オオバン										2						VU
14	チドリ	チドリ	ムナグロ	4															VU
15			ダイゼン	2															VU
16			コチドリ			2	3		2	1									VU
17			シロチドリ			3			5	68		1						VU	VU
18			メダイチドリ							4									NT
19		ミヤコドリ	ミヤコドリ	43															EN
20		シギ	チュウシャクシギ	2	3	2													VU
21			ダイシャクシギ	2			1			2			1						CR
22			ホウロクシギ	1			1			1								VU	CR
23			アオアシシギ	7									1						NT
24			キアシシギ	7	15	5				1	2		4						VU
25			ソリハシシギ										1						VU
26			イソシギ	2	1	3	1	3	2	1	4	2		5	4				VU
27			キョウジョシギ	22	53	73						1							VU
28			オバシギ	6															EN
29			ミユビシギ	7															EN
30			トウネン	15									2						NT
31			ハマシギ	359														NT	NT
32			キリアイ										1						CR
33		カモメ	ユリカモメ	727	32	8									26				
34			ウミネコ	6		2	171		2	580	4	128	467	9	203				
35			セグロカモメ	6															
36			オオセグロカモメ				8			6			2		2				
			大型カモメ[A]	3			11			9		7	5						
37			コアジサシ	15	14	152	1		101								国際	VU	EN
38			アジサシ	81	1														
39	タカ	ミサゴ	ミサゴ			1							1					NT	EN
40	ブッポウソウ	カワセミ	カワセミ			1													VU
41	スズメ	セキレイ	ハクセキレイ	1	2			2	2	3	5	4		2	2				
計 9目12科41種				27 種	14 種	15 種	13 種	8 種	11 種	17 種	9 種	10 種	16 種	9 種	11 種	0 種	1 種	5 種	29 種

※種の分類・配列は「日本鳥類目録 改訂第7版」(日本鳥学会,2012)に従った。

A:大型カモメに分類されるセグロカモメ、オオセグロカモメが確認されているので「大型カモメ」は確認種数には数えない。

*1文化財保護法:

*2種の保存法: 国際:国際希少野生動植物

*3環境省レッドリスト: VU:絶滅危惧Ⅱ類、NT:準絶滅危惧

参照:http://www.biodic.go.jp/rdb/rdb_f.html

環境省自然環境局野生生物課. 2012年. 環境省第4次レッドリスト.

*4東京都レッドリスト2010: CR:絶滅危惧ⅠA類、EN:絶滅危惧ⅠB類、VU:絶滅危惧Ⅱ類、NT:準絶滅危惧、留:留意種

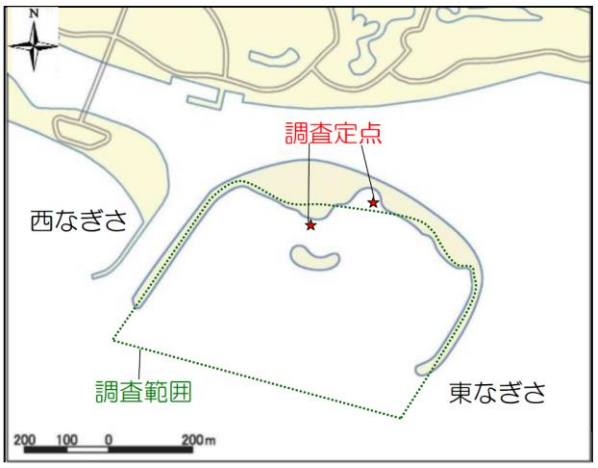
東京都環境局自然環境部. 2010年. 東京都の保護上重要な野生生物種(本土部)~東京都レッドリスト~2010年版.

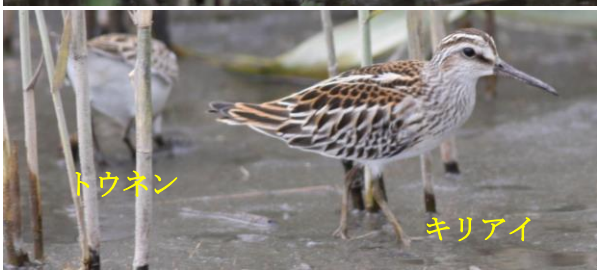
＜葛西人工渚＞

○調査地点の状況

干潟が広く干出していた。

干潟上でハヤブサを確認した。種の保存法で国内・国際希少野生動植物、環境省レッドリスト（2012）で絶滅危惧Ⅱ類（VU）、東京都レッドリスト（2010）で絶滅危惧 1B 類（EN）に指定されている。





○出現種（ソリハシシギ、キリアイ、トウネン）

干潟のヨシ原の陰で採食していた。東京都レッドリスト(2010)ではそれぞれ、絶滅危惧Ⅱ類(VU)、絶滅危惧ⅠA類（CR)、準絶滅危惧（NT）に指定されている。東南アジアやオーストラリアの越冬地へ向かう途中に日本で休息する。

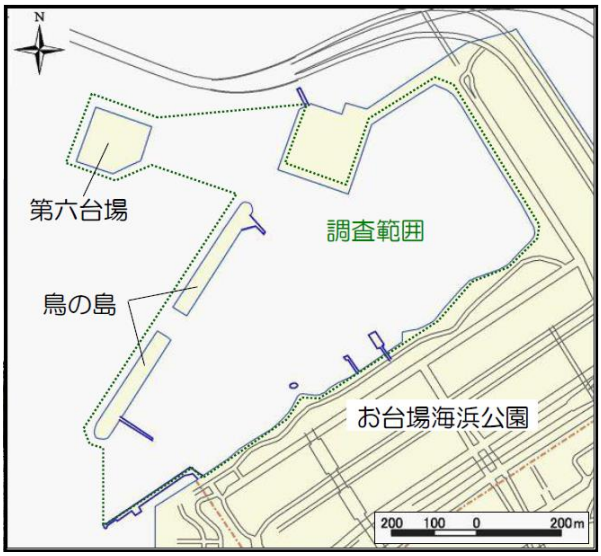
○出現種（カワウ、ウミネコ）

葛西人工渚で最も個体数が多かった 2 種。汀線付近で休息していた。調査範囲外の沖に停泊していた作業船などにも多数のウミネコが休息していた。

○出現種（ミサゴ）

海上で採食していた。環境省レッドリスト(2012)では準絶滅危惧(NT)、東京都レッドリスト(2010)では絶滅危惧ⅠB類(EN)に指定されている。空中からダイビングして脚で魚類を獲る。

＜お台場海浜公園＞



○調査地の状況

第六台場。カワウ、サギ類の営巣は終了していた。オオタカを確認した。種の保存法で国内希少野生動植物、環境省レッドリスト（2012）で準絶滅危惧（NT）、東京都レッドリスト（2010）で絶滅危惧1A類（EN）に指定されている。

○出現種（ササゴイ）

第六台場の護岸で採食していた。東京都レッドリスト(2010)では絶滅危惧ⅠA類（CR）に指定されている。写真の個体は翼に白色の斑点があることから幼鳥と思われる。

○出現種（カワウ）

第六台場や鳥の島の樹上や護岸で休息していた。繁殖が終了しており、5～8月の調査時に比べ個体数は少なかった。

○出現種（カルガモ）

海浜公園の砂浜で休息していた。ヒナを連れている個体を確認したことから、周辺で繁殖していたと考えられる。

＜森ヶ崎の鼻＞

〇調査地点の状況

干潟が広く干出していた。

〇出現種（コガモ）

干潟で休息していた。渡り期に入り、越冬のために北方の繁殖地から飛来した。飛来したばかりのオスはメスと似た様な羽色で、冬になるにつれて羽が生え換わり、オスの羽色となる。

〇出現種（ユリカモメ）

干潟で休息や採食していた。コガモと同様に冬鳥として飛来する。東京都の都民の鳥。夏羽では頭部が黒いが、冬羽では白くなる。

〇出現種（ウミネコ）

ユリカモメと共に干潟で休息している個体が多かった。